

横浜医療情報専門学校

平成 30 年度学校関係者評価会議事録

日時	平成 30 年 8 月 27 日(月) 16:00~17:00	
場所	横浜医療情報専門学校 3階 セミナー室	
参加者	学校関係者評価委員	中村 ふじ (神奈川県警察学校 教育参与)
		二宮 克行 (株式会社 MD アライアンス 副社長・COO)
		真野 誠 (日本電気株式会社 医療ソリューション事業部 シニアマネージャー)
		神崎 昭悟 (医療法人社団あんしん会 四谷メディカルキューブ 経営企画部 経営企画課 課長)
	本校教職員	川上 隆 (教務部 部長)
		小松 加代子 (教務部 次長)
		鈴木 和江 (医療事務科 学科まとめ)
		小野寺 栄吉 (医療 IT 科 学科まとめ)
		中村 健 (医療 IT 科 教員)
	資料	・自己点検評価表 ・当日説明用スライド資料

<議論の要旨>

1.学校関係者評価会実施にあたって

- ・「職業実践専門課程」の設置ガイドラインの中に学校評価として「自己点検評価」、「学校関係者評価」を行うことが規定されている。今回実施するのは内部で実施した自己点検評価を踏まえた学校関係者評価である。評価委員の方々に、専門学校教育を理解する場として頂くと共に、同課程設置にあたって外部評価が重視されている事も踏まえ、現場からの様々な意見を頂きたい。

2.平成 29 年度総括と自己点検評価における課題と改善方策（小松）

I 平成 29 年度総括

- ・文科省ガイドラインに沿って自己点検評価を実施した。各項目において、目標は概ね達成することができた。その中でも退学率と就職確定率については達成率が高い結果となった。また、PROG テストによる評価も取り入れた。評価の結果、本校学生の特徴としてジェネリックスキルが全体的に不足している傾向がみられた。その点も踏まえ、PROG テストにより入学者の特徴を計り、人間力の高い職業人を育成することに取り組んでいる。

II 自己点検評価における課題と改善方策

・学校運営（2-11）

（課題）情報システムを業務に有効に活用できているが、ネット出願、eラーニング等のシステムは実証段階にある。

（改善方策）ネット出願システムおよびeラーニングシステムを正式導入。また、従来の学内システムとのシームレスな連携を図っていきたい。

・教育活動（3-16）

（課題）教員のスキルは採用時に確認しているほか、取得資格等も随時把握しているが、取得資格だけでは評価できないスキルを可視化する仕組みが不十分である。

（改善方策）一覧性のある教員スキルシートの導入を検討。

3.H29 年度の各学科の取り組み（小松）

・医療事務科

昨年度の学校関係者評価会議において、学生に合わせて目標を柔軟に変更することも重要であるといったご助言をいただき、1年次資格取得率 100%を達成。無資格者 0 人を目指した指導により、学生全員が資格を取得することができた。学生にとっても大きな自信となったので、来年以降も引き続き指導を続けていきたい。2年連続卒業研究で日本赤十字社と連携し、学内でオープン献血を実施。次年度も継続して連携することを検討している。

・医療 IT 科

高齢者浴室見守りシステム（助けてアヒルちゃん）が 2017 年ビジネスモデル発見&発表会 全国大会において電算賞を受賞した。また、「もっと復興～もふっこ大作戦～」が ISC プロコン 2017 において優秀賞を受賞するとともに、神奈川県情報サービス産業協会主催 学生 IT コンテスト ビジネス企画部門で入賞するなど、外部コンテストにおいて成果を出すことができた。次年度に向けてさらなる強化を図っていきたい。

4.平成 30 年度の目標及び総括（小松）

- ・30 年度の重点項目である「他校を圧倒する専門力」「教育データの活用」「地域・年齢・レベル・国籍の拡大」「新たな産学連携の展開」「教職員の働きがい向上」以上 5 つの項目を目標に掲げている。本年度は、とくに 3・4 年生学科の入学人数を増やすことに注力していきたい。入学人数を増やすにあたって、重視しなければならない項目も含め現場からの様々なご意見を頂きたい。

<質疑応答・ご意見>

【PROG を活用した人材育成について】

- ・コンピテンスコアの結果について、「親和力・協働力」が高いが故に人の顔色を見る事から自分の意見を主張できず「統率力」が低い結果になっているのではないかと。一概に良し悪しと決めつけず、人材育成をしていくと良い。（中村）
- ・昨今の大学では、ジェネリックスキルを伸ばすために NPO 法人に委託している学校が多々ある。教員の負担を少しでも減らしながら効率的に活動していくことも重要である。（中村）
→医療は離職率が高い職業。病院内でもキャリアコンサルタントを入れて人材育成をしている。（二宮）

【医療 IT 科について】

- ・現在、警察では各部署にリクルーターという担当を置いている。医療業界に興味のある生徒がいる高校があれば、業者を介すのではなく、貴校から直接、リクルーターを派遣し説明や模擬授業などを行ってはどうか。警察学校には、幼い頃から警察官に憧れ入学して来る者が多い。進路を決める前から、まず“興味”を持ってもらうために、病院等と協働で高校生にキャリア教育を行う場が設けられると良いのではないかと。（中村）
- ・今までに学生が作り上げてきた作品は大変素晴らしい。これらの作品をブラッシュアップしてみたらよいのではないかと。そうすることで学科としての軸が見えてくることもある。（二宮）
→医療 IT 科において、外部のコンテストに出場させるのはとても良い取り組みである。学生が作った作品が作って終わりではなく、次につながるような取り組みもできるとなお良いものが出来上がると感じた。さらに自信を与える体験をさせてあげれば、入学人数も増えてくるのでは？（真野）
- ・学生の作った代表的な作品を拝見すると、どの作品も素晴らしいのだがテーマが異なっているため軸がブレているように感じる。介護や認知症といった一つのテーマに絞ることで学生も作品作りがしやすくなり、学校・学科としての特徴に繋がることで、教育の方向性も見えてくるのではないかと。
また、医療 IT は職種として理解しづらい分野でもあるのでそれを払拭しないと行けない。将来像がみえづらいため、VTR などに将来像をまとめイメージしやすいよう工夫が必要である。（真野）

短い時間ではあったが、本日委員の皆様にご意見を頂いた貴重なご意見を、より良い学校運営を行うために活かしていきたい。本日は、貴重なお時間を頂戴しありがとうございました。（川上）